

はんだの輝くひと



中日ドラゴンズ
いしかわ たかや
石川 昂弥さん
(半田市有脇町出身)

半田市有脇町出身で、プロ野球選手として活躍する石川昂弥さん。物心ついた頃からバットとボール、グローブがそばにあり、小学校2年生の時にチームに入ったそうです。

「野球が好き」その想いで野球を続け、バンテリンドームに何度も足を運びながら、プロ野球選手になれたらいいなと思っていました。その思いが大きくなったのは、甲子園優勝を経験した頃。そこから、プロという目標を強く意識するようになったそうです。

そして、2019年に中日ドラゴンズヘッドラフト1位で入団。

今年でプロ7年目を迎え、オフシーズンに肉體改造に取り組み、9キロ減量。打撃フォームも見直したそうです。「このままだとダメだと思った」と話す石川選手。これまで何かを大きく変えることはありませんでしたが、怪我が多く、思うようにいかない時期が続いていました。だからこそ、変わらうと思ったそうです。

その背景にあるのは、苦しいシーズンの記憶。4番として出場し続けた昨シーズン。チャンスで打席に立つ機会も多かったですが、「バッティングがぐちゃぐちゃになった」ともあった」と話します。

それでも打順は変わらない。打てなくても、4番として出続けなければならぬ。「きつかった」という短い言葉の中に、その重みがにじみます。

もともとポジティブな方で、落ち込むことはあっても、しっかりと切り替えてきたそうです。「去年はやばかったけど」そう振り返りながらも、どこか冷静です。

これまで石川選手が何度も向き合ってきたのが、けがでした。やりたくてもできない、そのもどかしさは簡単に消えるものではありません。それでも、「けがをしている中でもレベルアップできるところはある」と、この瞬間に目を向けて練習を続けてきたそうです。「今はどこも悪くなく、二塁にやれている」その言葉に、これまでの積み重ねが表れていました。

「ヒット一本、ホームラン一本でファンが喜んでくれる。それが、自分のやりがいにつながっている」と話してくれました。

今シーズンへの想いについて、「スタートはレギュラーではないが、それでも2年は長い。その中でどうサードのレギュラーを取るか考えながらやっていきたい」と話します。

最後に、市民からの応援の気持ちを伝えると、「頑張ります」とまっすぐな言葉をくれました。

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

QRコードは特許ベンチャーマークの
登録商標です。



植物油インキ使用
印刷 中基総合印刷株式会社

